

日本とアメリカの生活のちがい

桜町小・4 加藤 聖哉

ぼくは、三才のときから六年間アメリカに住んでいました。日本にもどってきたのは、三年生の終わりのころです。アメリカの学校と日本の学校があまりにもちがいがりすぎて、ぼくはとてもびつくりしました。

最初におどろいたことは、学校に登校するとき、通学はんがあつて、黄色いぼうしをかぶり、重たいランドセルをせおつて、みんな歩いていくことです。アメリカでは、毎朝、お父さんやお母さんが車で学校まで送ってくれました。帰りは、スクールバスに乗って家の目の前でおろしてくれました。歩いて学校へ行くことが初めてだったので、なれるまで大変でした。

次に、給食のちがいです。日本は食べる前にみんなで手を合わせ、「いただきます。」をして、食べ終わった後は、「ごちそうさまでした。」をします。アメリカでは、自分の食べるものを運んだらすぐに食べ始めます。「いただきます。」「ごちそうさまでした。」もしません。日本は健康なメニューばかりだけど、アメリカでは、ピザやハンバーガー、フライドチキン、ホットドッグのようなジャンクフードばかりでした。ぼくは、野菜がきらいだったけれど、日本の給食がおいしくて野菜が食べられるようになりました。

日本にはないと思うけれど、アメリカにはゲームやおもちやを持っていくことができる日があります。パジャマのまま学校に行く。パ

ジャマパーティーデー、おかしなかみがたをするクレイジーヘアデー、クレイジーソックスデー、全身緑色のかっこうをするグリーンデーのような特別な日がたくさんあってとても面白かったです。パジャマデーの日は朝起きたままのかっこうで学校にいけたので楽でした。

アメリカは、日本みたいに学校で決められている体そう服がないので、毎日しふくでした。アメリカは土足なので、上ぐつも体育館シューズありません。なれるまでは、くつのまま入りそうになつたことが何回ありました。

日本の学校では、ゆかにすわるときは体そうずわりをしています。アメリカでは体そうずわりをせず、みんなあぐらをかいてすわります。日本では、読書の時間にみんないすにすわってつくえの上で読んでいます。でも、アメリカでは、ゆかにねころがって読むこともありました。アメリカの学校でえいが見れる日があつて、その日は、まくらやブランケットを持っていき、ポップコーンを食べながらえいが見ることができました。これは、日本の学校にはないことだと思えます。

アメリカの夏休みは二か月以上あります。宿題は一つもありませんでした。もちろん、秋休み、冬休み、春休みも宿題はありません。今年、初めて日本での夏休みをすごしています。夏休みに入る前に出された宿題の量を見て、あまりに多くてとてもびつくりしました。全部できるかどうか心配になりました。早く宿題を終わらせないと大変なことになりそうなので、毎日こつこつとがんばってやっています。

アメリカでは、子どもたちだけで出かけたり、公園で遊んだり、

留守番るすばんをしたりすることができませんでした。でも日本では、子どもだけで遊ぶことができるのでとても楽しいです。買い物に行くときも、いつもお母さんといっしょに行っていたけれど、日本では留守番ができるようになりました。

ぼくがアメリカに行ったのは、三才になったばかりだったので、そのころのことはあまり覚えていません。アメリカでの生活が当たり前になっていたので、日本の学校がとてもきびしそうだと聞いて、日本にもどるのがとても不安でした。でも、日本にもどってきて初めて学校に行ったとき、みんなが声をかけてくれて、すぐに友達ができました。最初のころは、なんで日直さんがあるのか、なんでそうじ当番があるのか、なんで…、と思うことがたくさんあったけれど、友達が親切に教えてくれたのですぐになれることができました。アメリカと日本の学校は全然ちがうけれど、アメリカの楽しい行事が日本の学校でもできるとうれしいなと思います。